

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市大字奥田30-1		
自己評価作成日	平成24年6月13日	評価結果市町村受理日	平成24年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=4490100247&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	平成24年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・23年12月より毎月一回“グループホーム便り”を発行して、生活の場であるグループホームをより深く理解して頂けるよう努めている。
- ・季節毎の外出レクリエーションや室内での催しに地域のボランティアの方と民生委員の方にご協力頂き、地域に根ざした施設作りを目指している。
- ・母体の病院と併設している為、緊急時でも迅速な対応が可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の病院が隣接しており、医療との連携体制が確立されていることが強味であり、職員は安心して介護にあたる事ができます。利用者、家族、事業者のコミュニケーションを取る事を大事に考えており、ゲストルームを作り、訪れ安い雰囲気にし、遠方の家族には広報誌を送る事で近況報告をし、家族の絆を大切に支援しています。家族の安堵と感謝の様子がアンケートからも伺え、利用者の落ち着いた生活ぶりが感じられます。又家族の要望を受け取りハビリティに脳トレーニングを取り入れる等、ケアの充実に向け取り組む計画があります。認知症ケアには地域ぐるみの取り組みが不可欠であることの認識を全職員が共有しており、行政等との密な連携のもと、事業所の重要な活動の一つとして、地域の認知症理解の啓発に積極的に参加しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員会議で理念を復唱している。全職員が、理念を理解し、実践につなげられるよう、事務所及び職員控え室に理念を掲示している。	事業所の理念は、管理者、職員に浸透し、共有されています。玄関、事務室等に理念を掲げ、職員は常に意識し、日々の決意を新たにケアの実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加して、交流を図っている。また、毎月一回の地域の清掃活動にも入居者様と参加している。	自治会の協力で回覧板や市報を回してもらい、行事のお誘いを受けたり、地域の防災訓練に職員が出席するなど、地域交流に積極的に取り組む姿勢が見られます。地域で認知症講習会を開き、認知症の啓発にも努めています。	地域密着型サービスの理念の実現に向け、地域交流が更に深まり、事業所と地域の人々がお互いに支え合えるような、双方向関係が築かれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年8月に1回目の認知症講習会をキャラバンメイトを講師として招き実施した。今年は、地域の方々にも参加して頂き行う予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行っており、そこで頂いた意見については、迅速に取り組み次の運営推進会議で経過報告を行っている。	会議では、市の職員の発言が多く、助言や指導を参考に今後の目標に活かしています。家族会からも順番に出席してもらい、積極的な意見や相談が出されています。会議で出た意見、要望をサービスの質の向上に活かしています。	会議のマナー化を防ぐ為にも、幅の広い分野でのテーマを設け、会議の活性化を図る工夫も必要ですし、どのような質問にも返答できるよう日々研鑽を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の助言により、事業所でのマニュアルの見直しを行い新たに作成をした。また、市が主催する研修会にも積極的に参加している。	市主催の研修等は積極的に参加しています。相談事があれば、市に出向き指導を仰ぎ課題解決に向けたなど連携を図っています。また地域包括が中心になり、認知症ネットワーク作りに取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で、入居者の安全面に配慮しながら、臨機応変に見守りや声掛けなどを行い拘束をしないケアを実践するように全職員に周知徹底している。玄関の施錠は夜間のみしか行っていない。	身体拘束及び虐待に関しては、全職員で研修を行い、その弊害及び禁止となる具体的な行為等を理解し、身体拘束をしないケアを実践しています。又医療と介護の身体拘束に対する捉え方の違いも、言葉の拘束も含め、全職員が理解しています。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が管理者研修に参加し、学んだことをもとにグループ会議で職員に周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が主催する講座を管理者が受講して全職員に周知し、制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、管理者が行っており、十分に説明し、納得された上で、署名・捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、ご家族の意見や要望を聞くようにしている。また、運営推進会議に出席して頂き、発言の場を設け、意見や要望を出来る限り反映するように努めている。	利用者の意見、要望の聞き取りは難しい場合もあるが、日々のコミュニケーションの中から職員が汲み取っています。玄関に意見箱を設置していますが、家族の利用は少なく、口頭による意見等が多く、出された意見、要望は全職員で話し合い、運営に反映されています。	今後は、より多くの意見が出せる機会を作る為に「家族会」を作る予定にしております期待が持たれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の職員会議で出し合っている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行うように努めている。	休憩室に職員用の意見箱を設置し、業務改善等の意見を出し安い環境作りを行っています。又会議や日常のコミュニケーションの中で、意見や提案を聞き、管理者と職員で話し合い、実施に移されています。	職員の自己評価を行い、個人面談で個々の職員の意見や要望を把握する体制作りに期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会及び資格取得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加させ、スキルアップが出来る様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分市の各地域で行われている認知症ネットワークに参加して多職種事例検討会でのグループワークを通し、交流と学びの機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ずご本人と面会している。 また、ご家族や担当ケアマネを通して情報収集を行い、より良い支援が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及び、ご家族の要望や意見を聴き、対応している。また家族からの要望が出やすいように、関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人にとってどのようなサービスが必要かをご家族も含めて話し合い、当事業所以外のサービス内容についても説明し、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする物を生活の中で引き出し、役割を持っていただく事で生活のリズムを作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、こまめに連絡を行い、意見や要望を密に聞き取り、共に支援していく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開放的な施設の環境づくりに努めており現在では、入居者の昔の友人や同僚、ご近所の方々等の訪問がある。また、退所された、ご家族が自家栽培の野菜などを持参して下さる。	生活歴や家族の聞き取りを参考に、馴染みの人や場との、継続的な交流の支援を行っています。退所された家族からの差し入れがあったり、遠方の家族には、広報誌や電話で近況報告をする中で、家族との関わりを重視する支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やホールで過ごす際の場所を考慮している。また、両ユニットの交流が深まるように“歌の会”を開いている。		
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、入居者様への支援内容や注意点等の情報提供を行い、退所後は職員が面会に行くなどしている。ご家族様より経過報告や相談を受ける。		y

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は、本人に直接聞くようにしている。本人より聞き取りが困難な場合は、日々の関りの中で、思いや意向の把握に努めている。また、家族の思いや意向も参考になっている。	利用者や家族の聞き取りにより、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。表出が困難な利用者には、入浴時や夜間にゆっくり時間をかけて話し、思いを把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネ情報を通して、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察し、心身状態の把握に努めている。全職員が入居者様の現病歴を把握し、入居者様一人ひとりの心身状態に合わせたバイタルチェックを行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が主体となり、本人・ご家族の意向を、ふまえながら、カンファレンスにて他職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	毎日の状態を記録する中で、ケアプランに必要な情報には印を付け参考にすると共に、毎月のカンファレンス時には、担当職員を中心に全職員で検討し、一人ひとりの状態や暮らしを反映したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録に日常の様子を記入し情報を共有するように努めている。 また、バイタル測定・食事摂取量・排泄チェック表等で入居者の心身の状況を把握するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、ケアマネ情報を通して、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、参加者の皆様から地域の情報を頂いており、地区の回覧板を回して頂くなどして情報収集に努めている。また、ボランティアの受け入れを行い、地域の方との交流が図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医への受診を基本とし、ご本人・家族の希望に沿った医療機関への受診を心がけている。	利用者や家族の意思確認・同意に基づき、家族の支援による受診が行われる中で、家族との相互の共有が図られています。母体の協力医療機関と共に、安心な日常の暮らしの支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士より、入居者様の状態について、その都度、報告・連絡・相談があり、看護師より適切な指示がだされている。また、隣接している母体医療機関の看護師とも密に連絡をとり協力関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の看護師及びMSWと連携し、情報収集に努めている。また、医療機関へ管理者及び看護師が出向き、直接本人の情報収集を行い、ご家族とも話し合いながら退院後の受け入れがスムーズにできるよう、環境調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしながら家族と話し合い入居者様が安心して終末期を過ごしていただけるように取組み、急変の際は、直ぐに対応できるように医療機関とも密に連携を図り対応している。	利用者や家族等への意思確認・同意を得る仕組み「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を表明しています。重度化及び看取りに関する病院連携の協力体制が詳細に記されており、前進的な取り組みの姿勢が伺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。ノロ対策については、定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方の訓練指導を定期的に行っている。また、入居者様には、災害時に備えて、各自リュックを準備していただいている。	グループホームのみで、年2回(夜間・日中)を想定した避難訓練が行われており、消防署の指導を仰いでいます。玄関脇には、個々の家族が準備したリュック(外部に記名ラベル)が保管しており、緊急時の対策が図られています。	地域住民との関連を取り入れた防災マニュアルの策定と、自然災害時への対応について、全職員間での課題の見直しと、より実践に即した対策の検討・内容の充実に、期待が持たれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回の職員会議にて、言葉遣いを始め、プライバシーや尊厳について、意識を高めるよう指導している。また、法人主催の接遇マナー研修に全職員参加している。	呼び方は「さん」付けを基本としており、毎月の職員会議では、利用者との信頼関係(プライバシー・言葉づかい等)の重要性の把握と周知に取り組んでいます。法人の年間研修計画(接遇マナー)への出席により研鑽を深めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、入居者様のペースを大事にするように心がけている。また、できる限り”開かれた質問”を行うように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活リズムの流れは作っているが、ご本人の意志を尊重し、無理強いするようなことなく、本人のペースで生活出来るように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個人個人の好みにお任せしている。家族の希望がある場合は、ご本人に納得していただいてから、着用していただくようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調を見ながら出来る範囲で食事作りと後片付けを一緒に行っている。	献立は、法人による配食を基本としています。日曜日のおやつ作りや、花見などのイベント食では、利用者の要望を取り入れながら、職員との共同で手作り調理にも取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス記録表に食事量・水分量等を毎日その都度チェックし、一人ひとりの状態を把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者が口腔ケアを行っている。また、協力機関の歯科医の指導の下、その方に合った個別支援を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの状態に合わせた声かけや、自立に向けた支援が行われています。職員相互の連帯感を基盤に、個々の職員の気づき・プライバシーへの配慮の取り組みを大切に、援助に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、入居者様の排便リズムを把握し、なるべく下剤を使用しないように運動を取り入れたり、ヨーグルトや果物を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一週間に基本三回となっているが、時間帯は、入居者様の希望に沿う様、対応している。	全職員が利用者の習慣や好みを共有する中で、清潔保持に努め、並びに、リラックスできる心地よい入浴への支援が行われています。	個々の利用者の心身の状態に応じた支援が検討されているようです。今後の身体機能の低下に伴う対策について、全職員間での協議と、更なる介護技術の向上に、一層の期待が持たれます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間、就寝時間は、入居者様の習慣や体調に合わせて、見守りを中心に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬当番を決め、全職員が携わり周知徹底できるように努めている。また、薬品説明書を一冊のファイルにし、全職員がいつでも確認、把握できるようにしている。なお、服薬については、飲み終わるまで、職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるような、仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、日々の中でその人に沿った楽しみや役割をみつけられる様に職員同士で情報共有し支援に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物などは、積極的に行っており、日常的に外周散歩を行っている。施設で対応が困難な場合は、家族の協力を得て、できる限り希望が叶えられるように支援している。	利用者一人ひとりの思いを大切に、外出支援に取り組んでいます。3・4人での園内散歩や買い物、ドライブ等が行われており、利用者の健康状態に配慮しながら、気分転換(室外)への積極的な支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、自己管理できる方とできない方とに分かれるが、入居者様の希望に沿えるように職員が同行し、買物に行くように支援している。なお、毎月ご家族に収支をお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、職員の支援が必要な方には、職員が個々に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をこまめに行い、気持ちよく使用できるよう支援を行っている。季節が感じられるよう、その季節に合ったものを入居者様と作ったり、飾ったりしている。	居間は、職員との共同作品や個人の趣味の展示の場としても、活用されています。利用者の趣味や興味(歌会・お手伝い・新聞おり)など、その時々を大切にしながら、家庭的な空間づくりに取り組んでいる様子が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファの位置や食事のテーブル席などそれぞれの人間関係を考えて決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのものなど持って来ていただくようにしている。	利用者や家族の思いの尊重、リラックスできる雰囲気大切に、安全な家具配置に努めながら、安心して暮らせる生活空間づくりに家族と共に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂・トイレ・廊下などには、手すりを設置し自立歩行の安定を図っている。また、居室は、状態や状況に応じて家具やベッドの配置の変更を行っている。		